

平成 23 年度 多可町生活創造大学 生活環境科 提言

生活環境科では、「いま 私たちにできること」をテーマに、エコな生活の工夫や自然環境の保全、いきいきとした日々の生活の知恵などについて7回の講座を開催しました。

その中で次の3点について提言します。

【1】エコな生活を多可町全域に

夏の暑い時期の節電対策として、前年度に引き続き役場玄関横にゴーヤのカーテンを作りました。長年の研究成果があり、特に今年は立派なカーテンができました。また、ふれっしゅめぐり館の協力をいただき、ゴーヤのジェラート作りに挑戦しました。少し苦味のきいたおいしいアイスができましたが、一般商品として売り出すのは難しいとのことで少し残念でした。

このゴーヤのグリーンカーテン作りをさらに発展させるため、学校園や企業にも協力をお願いし、多可町あげてのエコ生活の取り組みとしてはどうかと考えます。とくに、児童生徒については、子どものうちからこうした環境問題を考える良い学習の場となると思います。

“グリーンカーテンの町”多可町をつくりましょう。

【2】防災対策について

東日本大震災以降、新聞紙上等では防災対策の見直しについて毎日のように報道されています。多可消防署の職員の方が緊急消防援助隊として福島県や宮城県などで活動され、被害の状況や悲惨さを聞き、心が苦しくなりました。津波被害については多可町では無縁のことかもしれませんが、地震と水害、山崩れなどは関係が深く、現行の基準や行動マニュアルなど見直しが必要であると思います。

昨年の台風による杉原川の洪水、これに伴う民家や公共施設の浸水被害は記憶に新しいところです。避難勧告が発令され、どの程度の人が避難したか。避難所が浸水したという事実もあります。生活様式の変化による地球の温暖化や森林の崩壊などにより、水害や山崩れなどの災害が激増しています。また、東南海地震の発生も懸念されています。

多可町では特に住民に身近な各集落ごとの避難経路や避難場所、高齢者の誘導、備蓄用品など、具体的な防災計画の策定と見直しを早急を実施すべきと提案します。

また、学校の避難訓練の重要性が今回の震災で明確になりました。学校においても、マニュアルを早急に作成し訓練を実施すべきと考えます。

【3】貴重な講演を皆さんに

加美区西光寺の岡本哲雅住職の講話を聞きました。生き息きと暮らす、輝いて毎日を生きていくためには……。現在社会は無縁社会といわれており、家族や地域などのつながりが無くなってきている。家族全員が食卓を囲むことも少なくなり、地域社会の共同作業や隣同士の付き合いなども少なくなっている。女性は比較的地域での繋がりはあるが、会社勤めなどの男性は、退職後こうした繋がりがなく孤立することが多い。今必要なことは「縁」を大切にすることであり、同好の縁、学ぶ縁、支縁であり、これに気づき、深くかかわり、育てていくことである。こうした大変有意義な話がありました。

そこで提案ですが、こんな素晴らしい講演を私たち受講者のみで留めておくのはもったいない。もっと広く町民の皆さんにもお知らせすべきだと思います。たかテレビや広報紙、インターネットなどでもっと広報すべきと考えます。時間が長ければ分割して、連載方式でも広報できます。行事などのお知らせ広報も必要ですが、行政の抱えている懸案事項やこのような講演など、企画記事として報道してはどうですか。